

研究の背景及び目的

近年、厚生労働省の施策として精神障害者の地域移行が積極的に進められ、宮崎県でも地域で生活する精神障害者が急激に増加することが予想される。精神疾患を持つ人の身体疾患を併せ持つ割合が高いことが指摘されており、私たちは在宅で生活する精神障害者の食行動と生活習慣病、中でも口腔衛生との関連に着目した。宮崎県内の精神科デイケア利用者を対象にアンケート調査を実施し、精神障害者の口腔衛生に関するセルフケア能力の向上が地域生活のQOL向上への関連を明らかにするための基礎資料としたいと考えた。

精神障害者の口腔衛生に関するセルフケア能力と地域生活におけるQOLの向上の関連を明らかにすることを目的とし、口腔衛生状況と食行動の関連、および身体機能や精神症状との関連について実態調査を行う。

実施状況

研究方法

調査実施期間：2014年12月 3日～18日

対象者：宮崎市内精神科デイケア利用者80名

調査方法：質問紙調査（アンケートに沿った調査員による聞き取り調査）

調査項目：基本属性（性別、年齢、診断名）口腔衛生（歯みがき行動、歯みがき回数および時間、口腔内自覚症状、義歯の有無、現在歯数、歯科受診行動、嗜好品の摂取状況など）

分析方法：現在歯数は平均値と標準偏差を算出した。口腔衛生の各要因による統計的な差はスチューデントのt検定によって確認した。

表4 現在歯数との関連(t検定)

	人数	平均値	標準偏差	p値
口の中は健康である	44	17.9	9.7	n.s
ない	31	17.9	8.3	
歯医者に行く	47	18.4	9.0	n.s
すぐには行かない	29	17.1	9.1	
喫煙あり	40	16.2	9.6	0.084
なし	36	19.8	8.0	
乳酸菌飲料をよく飲む	11	13.7	9.3	0.096
あまり飲まない	65	18.6	8.9	

表1 基本属性

	n=80	
	人数	%
性別		
男性	44	55.0
女性	36	45.0
年代		
20歳代	3	3.8
30歳代	7	8.8
40歳代	20	25.0
50歳代	25	31.3
60歳代	20	25.0
70歳代	5	6.3
診断名		
統合失調症	65	81.3
うつ病	4	5.0
てんかん	3	3.8
その他	8	9.9

表2 口腔ケア状況

	n=80	
	人数	%
歯みがきする時		
起床時	20	25.0
朝食後	32	40.0
昼食後	18	22.5
間食後	2	2.5
夕食後	29	36.3
就寝前	27	33.8
歯みがき回数		
0回	3	3.8
1回	41	51.3
2回	23	28.8
3回	12	15.0
5回	1	1.3
歯みがき時間		
1分以内	7	8.8
1～3分以内	39	48.8
3～5分以内	18	22.5
5～10分以内	11	13.8
10分以上	3	3.8
無回答	2	2.5
入れ歯の有無		
なし	61	76.3
あり	19	23.8
入れ歯の掃除		
いつもする	12	15.0
ときどきする	6	7.5
しない	1	1.3

表3 口腔内の自覚症状

	n=80	
	人数	%
ベタベタする	10	12.5
乾燥する	12	15.0
歯ぐきから出血する	10	12.5
食べ物がうまく噛めない	9	11.3
よだれが出る	11	13.8
呂律が回りにくい	9	11.3
歯が痛む	7	8.8
歯に食べ物が挟まる	18	22.2
口臭	40	50.0
歯ぎしり	11	13.8
その他	12	15.0

結果および考察

- 対象者の平均年齢は52.6±11.3歳
- 現在歯の平均歯数は17.9±9.0本であり、永久歯が28本以上ある者は18.4%、20本未満46.1%
- 義歯使用者の現在歯数は8.9±7.6本
- 歯みがきの平均回数は1.6±0.9回であり、1日に1回のみの方が半数以上だった。歯間ブラシなどの使用は21.3%だった。
- 歯みがきをするのは朝食後が最も多く40.0%であり、半数にも満たなかった。
- 口腔内の自覚症状は「口臭」50.0%と最も多く、次いで「食べ物が挟まる」22.2%だった。高齢者の自覚症状で多いのは、乾燥と口臭であり、症状の割合に違いがあった。
- 現在歯数との関連をみると、現在歯数と口腔内健康度に関連はなく、歯医者に行く行動の違いもなかった。精神障害者は喫煙者が多く、本研究対象者も喫煙率が高かった。喫煙と歯周病の関連が強いことが報告されており、喫煙者に現在歯数が少ない傾向があった。また乳酸菌飲料を好んで摂取する者も現在歯数が少ない傾向にあった。



目標の達成度及び成果

- 対象者の現在歯数や口腔内の自覚症状について把握でき、またセルフケア状況についても確認ができた。
- 口臭を気にしている者は50%と多いものの、歯みがき回数の平均は1.6回であり、自覚症状とセルフケアが結びついていないことがわかった。
- 歯医者に行く行動は60%以上ができており、治療行動は行えているが、歯みがきや歯みがき用品の使用などの予防行動に関心を向けて行く必要性が示された。



今後の課題及び展開

- 今後はこの結果を基に対象のデイケア利用者に説明会を行い、口腔ケアの必要性を理解してもらえよう健康教育プランの立案をし、定期的に口腔ケアを行いながらセルフケア力を高めていくことを目標とする。
- 約6割が歯科診療に行くことができてきていることから、歯科医や歯科衛生を巻き込んで予防的な介入の連携を図る。
- 今回の結果はデイケア利用者の口腔ケアへの関心を深めるだけでなく、スタッフの口腔ケアへの関心が精神科デイケア利用者に浸透して、セルフケア力が高まる看護介入につながっていくことが今後の課題である。

・所属：医学部看護学科（地域・精神看護学講座）

・名前：白石裕子、青石恵子、田上博喜

・地域志向教育研究経費区分：自由公募型

・対象となる領域：精神看護、歯科・口腔衛生

<問い合わせ先>

みやだい COC 推進機構

住所：宮崎市学園木花台西1-1

Tel: 0985-58-7250

E-mail: coc@of.miyazaki-u.ac.jp

～宮崎に笑顔と未来を～